



# アスンシオン通信

シーズン2

日付: 2025 年 6月27日 no.30

発行者: 田邊紘起

Hola a todos ! Que tal? Como están?

6月が終わりに近づき、1学期も残すところあとひと月ほどになりましたね。スッキリと気持ちよく夏休みが迎えられるよう、1学期の学習のまとめをがんばってください。

さて今回は、日本でも普通に売っていて、みんなが毎日のように飲んでいるあれについてお伝えします。

## どうしてこんなに期限が長いの？

学校で給食を食べるとき、いつも登場するものといえば何でしょう。そうですね、それは**牛乳**です。



アスンシオンのスーパーで売っている牛乳パック。1リットルサイズが多い。=自宅

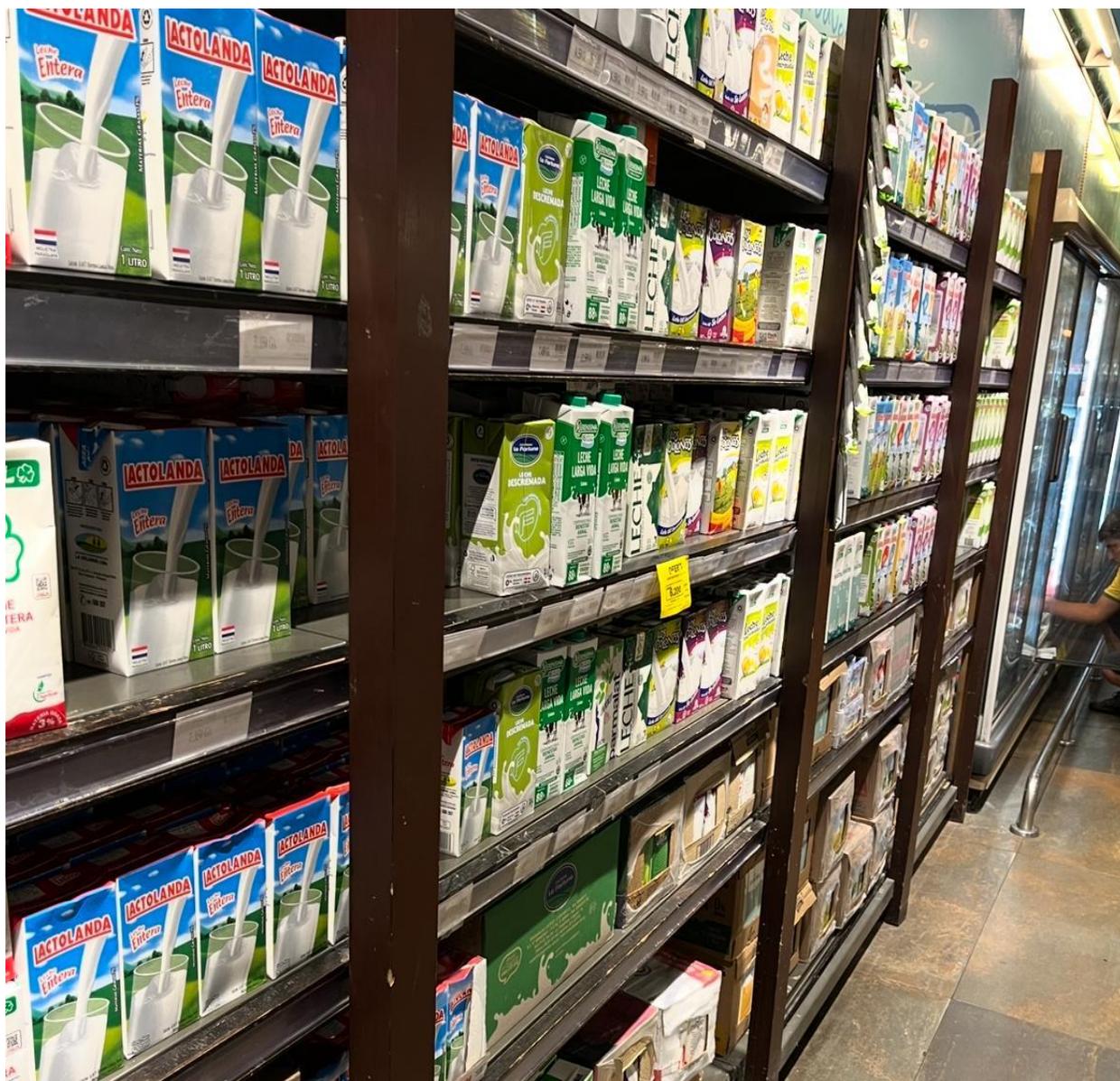
学校だけでなく、家でも飲んでいるという人も多いと思います。牛乳はカルシウムやたんぱく質などが豊富に含まれる飲み物として知られていて、もちろんパラグアイの人も飲んでいます。ただ、「どうして?」と思うことがあったので紹介します。

まずは、お店で牛乳が置いてある場所です。日本では普通、牛乳は冷蔵(商品が傷まないように冷やしている)コーナーにあると思います。パラグアイのスーパーの冷蔵コーナーに並んでいるのは、ビニールふくろに入った牛乳です。これをケトルのような容器にそのまま入れ、コップにそそいで飲みます。ふくろ入りの牛乳に、まずびっくりです。



冷蔵コーナーに売られているふくろ入りの牛乳。=Supermercado s6

日本で売っているような紙パック入りの牛乳は、なんと常温（商品を冷やさない）コーナーに並んでいます。しかも消費期限を見ると5カ月以上あります。下の写真の牛乳は2月7日に買ったものですが、消費期限が7月12日と書いてありました。日本の牛乳の期限は1週間くらいが普通なのに、パラグアイではなぜこんなに期限が長いのでしょうか？



常温（冷やさない）コーナーに並んでいる牛乳パック



### 消費期限の長さにびっくり=自宅

お店に並んでいる牛乳は普通、製造元で加熱消毒とかして安心安全に飲める商品にしていますが、加熱消毒の温度や処理の仕方は、国や地域によって違うようです。パラグアイの牛乳パックはかなり分厚く、内側に光を通さない銀色のフィルムがついています。紙パックの容器も日本のものとは違います。牛乳という同じ商品を比べてみても、国によっていろいろ違いがあることが分かります。パラグアイのような製造方法なら、期限切れで牛乳を捨てることも少なくなるのかなと思いました。地球

や世界の人々のために「食品ロス」が減るのはいいことだと思います。ちなみにこちらの牛乳の味も日本とほとんど変わりません。



パックを切って開くと内側に光を通さない銀色フィルムがはってある=自宅

## タイトル写真について

花の蜜を吸いにきたハチドリです。花が咲く時期になるとハチドリがやってきて、飛びながら花の蜜をじょうずに吸って周ります。吸っている間、よく空中でじっとしてられるなど感心します。その飛んでいる様子は本当にハチのようです。

## スペイン語・グアラニー語ひとこと講座

Que hora es? (ケ オラ エス): 何時ですか?

時刻を知りたいとき、このようにたずねます。パラグアイの人は、スマホや腕時計を見てすぐに笑顔でやさしく教えてくれます。知らない人とも気軽に会話ができるって、すばらしいですね。

## 次回について

次回はパラグアイでよく見る道路工事について紹介します。

Chao chao!nos vemos!